

報	テレビ・ラジオ	平成15年10月23日午後5時以降
い	新聞	平成15年10月24日付け朝刊以降



— お知らせ —

平成15年10月23日
 J H 日本道路公団
 横浜工事事務所

横浜環状南線 横浜市南部地域猛禽類調査検討会の中間とりまとめ(その4)

横浜環状南線(以下、「横環南」)は、横浜市金沢区釜利谷町^{かまりや}から同市戸塚区汲沢^{ぐみざわ}町までの延長約9kmの自動車専用道路であり、横浜市中心部に集中する交通を分散し、市内の慢性的な交通渋滞を緩和することを目的に計画されている横浜環状道路の一部で、平成7年に都市計画決定されました。また、首都圏中央連絡自動車道にも位置付けられています。

横環南は平成12年3月に工事に着手し、これまでに釜利谷JCT内において工事用道路工事を実施してまいりました。また、今後の横環南の本格的な工事に向け事業者としてより慎重を期すため、平成12年8月に「横浜市南部地域猛禽類調査検討会(委員長:柴田敏隆 神奈川県自然保護協会副会長)」を設置しオオタカの生息に関する調査・検討を行なってまいりました。

平成12年11月、平成14年1月及び平成14年10月に調査結果をとりまとめ、中間報告したところですが、今般、これまでの調査結果を取りまとめましたのでお知らせします。

お問い合わせ先	
日本道路公団	横浜工事事務所
工務課長	小林 正 俊
電話	045-352-3771(代表)

横浜市南部地域猛禽類調査中間とりまとめ（その４）の概要

平成１５年１０月

横浜市南部地域猛禽類調査検討会

1. 事業概要

横浜環状南線（以下、「横環南」）は、平成7年に都市計画決定され、「かながわ新総合計画21」、「ゆめはま2010プラン」等に位置づけられた重要な幹線道路であり、その整備は、横浜市中心部への交通集中を緩和し、郊外間の連絡を強化することで、市域のバランスある発展を促すとともに、今まで生活道路に侵入せざるを得なかった通過交通を減少させ、生活道路の安全を確保するものです。

また、横環南は首都圏中央連絡自動車道にも位置づけられており、その整備は、横浜、厚木、八王子、つくば、成田、木更津などの中核都市との連絡強化を図り、一層の都市活動の活性化に大きな役割を果たすものと期待されています。



2. 検討会の概要

(1) 概要

神奈川県より横浜市南部地域におけるオオタカの生息に関する情報提供があり、事業者として、今後の横環南の本格的な工事に向けより慎重を期すために、平成12年2月から調査を開始しました。

また、平成12年8月に「横浜市南部地域猛禽類調査検討会（委員長：柴田敏隆 神奈川県自然保護協会副会長）」を設置して生息・繁殖状況調査等の調査の結果を踏まえ、保全対策について検討を行いました。今回、これまでに検討してきた保全対策の効果を検証するためのモニタリング（監視）について検討を行いました。

検討会名簿（平成15年10月現在）

	氏名	所属
委員長	柴田敏隆	神奈川県自然保護協会副会長
委員	柳澤紀夫	日本鳥類保護連盟理事
	川手隆生	神奈川県野生生物研究会事務局長
	石田 稔	国土交通省横浜国道事務所所長
	奥脇郁夫	日本道路公団横浜工事事務所所長

(2) 検討内容

これまでに検討会を8回開催し、その内容について中間とりまとめとして公表してきました。

1) 中間とりまとめ（その1）

第1回検討会 平成12年8月7日

平成12年2月～7月までのオオタカの生息・繁殖状況調査等並びに既存資料の内容について報告するとともに、今後の調査計画等について検討しました。

第2回検討会 平成12年10月13日

平成12年8月・9月の生息状況調査等及び9月の営巣木調査について報告するとともに、2月以降の調査のまとめ及び今後の保全対策の方針、調査計画等について検討しました。

2) 中間とりまとめ（その2）

第3回検討会 平成13年3月23日

平成12年11月及び平成13年2月・3月の生息状況調査等について報告しまし

第4回検討会 平成13年7月8日

平成13年の生息・繁殖状況調査等について報告するとともに、今後の調査計画等について検討しました。

第5回検討会 平成13年12月10日

平成12年・13年の調査結果について取りまとめるとともに、保全対策の方針について検討しました。

3) 中間とりまとめ(その3)

第6回検討会 平成14年10月10日

平成14年の生息・繁殖状況調査等について報告するとともに、12年～14年の調査結果について取りまとめるとともに、保全対策について検討しました。

4) 中間とりまとめ(その4)

第7回検討会 平成15年3月28日

平成15年2月・3月の生息・繁殖状況調査等について報告しました。

第8回検討会 平成15年9月2日

平成15年の生息・繁殖状況調査等について報告し、12年～15年の調査結果について取りまとめるとともに、これまでに検討してきた保全対策の効果を検証するためのモニタリング(監視)について検討を行いました。

3. 調査の概要

(1) 既存資料調査

地元の野鳥観察グループが実施したオオタカの生息・繁殖状況調査等のデータの提供を受けました。

(2) 現地調査

調査期間

平成12年2月～平成15年8月

調査方法

既存資料調査を基に、横浜市南部地域周辺における樹林地の調査により、オオタカが生息する可能性がある樹林地を把握したうえで、専門家の意見を聞きながら、生息状況調査、繁殖状況調査、食痕調査、非繁殖期に現地踏査による営巣木調査を実施しました。

現地調査期間

調査項目	調査期間	備考
生息状況調査	平成 12 年 2 月～9 月及び 11 月 平成 13 年 2 月～9 月 平成 14 年 1 月～8 月 平成 15 年 2 月～3 月、5 月、7 月	原則、毎月 2 日間
繁殖状況調査	平成 12 年 4 月～6 月 平成 13 年 4 月～8 月 平成 14 年 4 月～7 月 平成 15 年 4 月～7 月	平成 12 年は原則毎月 2 回 平成 13 年は原則毎週 平成 14 年は原則毎月 2 回 平成 15 年は原則毎月 2 回
食痕調査	平成 12 年 2 月～9 月及び 11 月 平成 13 年 2 月～9 月 平成 14 年 1 月～8 月 平成 15 年 2 月～3 月、5 月、7 月	原則、毎月 1 日間
営巣木調査	平成 12 年 9 月 平成 13 年 9 月 平成 14 年 8 月 平成 15 年 8 月	平成 12 年は巣立ち確認後 2 回実施 平成 13 年は巣立ち確認後 1 回実施 平成 14 年は巣立ち確認後 1 回実施 平成 15 年は巣立ち確認後 1 回実施

4. 調査結果の概要

(1) 生息状況調査

横浜市南部地域の現地調査で各月ともオオタカの飛翔を確認しました。

(2) 繁殖状況調査

平成 8 年から平成 15 年まで毎年繁殖が行われ、昨年と同じ営巣地において平成 15 年は 3 羽の巣立ちを確認しました。この調査により、産卵時期、巣立ち時期等を確認しました。

(3) 食痕調査

食痕は調査地全域で確認されました。調査の結果約 10 種の痕跡が確認され、種同定ができた食痕は全て鳥類でした。また、痕跡はドバトのものが多く、キジバト、ヒヨドリ、コジュケイ、ハシブトカラス等が比較的多く確認されました。

食痕として確認された種は、大半が横浜市南部地域には一年中みられる留鳥であり、生息数も多い種で、確認された場所も特に偏りは見受けられませんでした。

(4) 営巣木調査

現地踏査を行い営巣木及び架巣状況等についての調査を実施しました。

5. 保全対策

(1) 前回までの検討内容

横環南は横浜横須賀道路と連結するため、現在供用中の釜利谷ジャンクション内及び釜利谷ジャンクションに隣接する緑地部を含む部分において、道路建設が計画されています。

これまでの調査において、横浜市南部地域のオオタカは、横浜横須賀道路が供用中であるにも係らず繁殖に成功していることが確認されています。

この状況を踏まえ、調査結果を総合的に検討した結果、横浜横須賀道路釜利谷ジャンクション内における道路建設がオオタカの生息に与える影響は少ないものと考えられます。

しかし、その影響をより少なくするとともに道路と自然環境との調和を図るためには、地形の改変を少しでも少なくする、改変部分に郷土種を主体とした植栽を行う、低騒音・低振動型機械を採用する、工事途中段階で早期に自然復元を図る等の自然環境対策を行うことが有効であると考えられます。なお、事業者が実施した釜利谷ジャンクション内での工事用道路工事においては、本検討会で検討した自然環境対策を行い工事を実施したところ です。

今後実施される釜利谷ジャンクションに隣接する緑地部における道路建設については、より一層の慎重を期して、工事の実施においては、必要に応じて営業期間中については施工方法・工程に配慮する等の保全対策を行うことが有効であると考えられます。

(2) 今回の検討内容

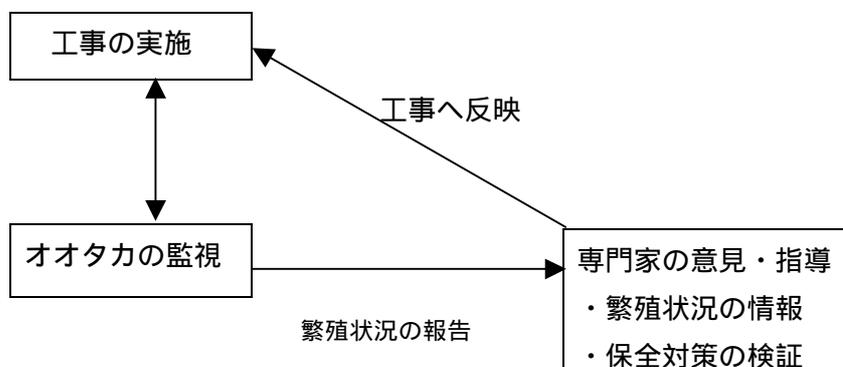
保全対策の概要

工事位置	保全対策の概要
供用中の釜利谷ジャンクション内	<ul style="list-style-type: none">・低騒音・低振動型建設機械の使用・建設騒音の低減化（トンネル掘削）・施工段階での土地の改変面積の縮小・工事途中段階での早期自然復元・既存樹林の保全・工事従事者の服装、行動の指導・徹底
釜利谷ジャンクションに隣接する緑地部	<ul style="list-style-type: none">・供用中の釜利谷ジャンクション内における一般的な自然環境対策に加え下記の対策を実施する。・営業期間中の重機を使用した作業、音の出る機械を使用した作業について、必要に応じて工程に配慮する。・営業期間中において、飛翔の妨げとなる高さのクレーン作業を制限する。・工事用道路をパネル等により遮蔽する。・営業期間中の作業内容により必要に応じて、繁殖状況のモニタリングを実施する。

6. モニタリング（監視）

これまでに検討してきた保全対策の効果を検証するため、営巣期におけるオオタカの繁殖状況のモニタリング（監視）について検討しました。

モニタリングフロー



7. まとめ

これまでの調査結果を踏まえ、道路と自然環境との調和に十分配慮した取り組みを進めることにより、オオタカの生息への影響は軽減できると考えられます。

なお、今後モニタリングにより、これまで検討してきた保全対策の効果を検証することとしています。

オオタカの飛翔状況・営巣地等に関する情報の公表は、巣の位置が限定され、密猟のほか、カメラマン、観察者等多数の人々が営巣地の周辺に出入りを繰り返すことにより、オオタカの繁殖を阻害する恐れがあるため差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

以 上

釜利谷ジャンクション内での工事用道路工事において、これまでに実施した保全対策の概要は下記のとおりです。

各工事において実施した保全対策の概要

工 事 名	期 間 (工期)	工事位置	実施した保全対策	繁殖状況
釜利谷工事	H12.2.2 ～ H13.1.26	釜利谷ジャンクション内	・低騒音・低振動型機械を採用 ・改変部分に郷土種を主体とした植栽	平成 12 年：3 羽巢立ち
釜利谷整備工事	H13.3.24 ～ H14.10.14	釜利谷ジャンクション内	・低騒音・低振動型機械を採用 ・改変部分に郷土種を主体とした植栽	平成 13 年：3 羽巢立ち 平成 14 年：4 羽巢立ち
釜利谷北整備工事	H15.3.25 ～ H16.2.17	釜利谷ジャンクションに隣接する緑地部	・低騒音・低振動型機械を採用 ・営巣期間中については施工方法・工程に配慮	平成 15 年：3 羽巢立ち